



当番世話人 朝倉博孝 先生
(埼玉医科大学病院)

2014年8月2日(土)、大宮ソニックシティビル(埼玉県さいたま市)において、第16回埼玉老年・泌尿器科研究会が開催された。毎年多くの演題が発表されるため、多数の参加者が集まり、活発な議論が交わされる。今年も一般演題11題、特別講演2題、さらに優秀演題賞の発表も行われた。今年のもっとも優秀な演題には「尿路カテーテル管理における、ウェストバッグ型集尿袋の有用性についての検証」(重城泌尿器科クリニック)が選ばれた。今回は受賞演題と一般演題をレポートする。(編集部)

第16回 埼玉 老年泌尿器科研究会



●代表世話人 石井泰憲先生(医療法人石井クリニック)

一般演題III

骨盤臓器脱に対するM型のペッサリーリングの使用経験

石井泰憲先生
(医療法人石井クリニック)

医療法人石井クリニックでは、
新型のM型ペッサリーリングを

骨盤臓器脱患者21例に使用した効果を検証し、報告した。

ペッサリーリングは、「使用によって腹圧性尿失禁を生じた」「交換時に疼痛と出血がある」「排便時に落下しやすい」「腔の形状にリングが合わなく使用できない」「サイズ合わせが難しい」などさまざまな問題がある。

新型のM型ペッサリーリング使用前後の評価を立位でのIPSSスコアで確認してもらい、効果を検討したところ、M型ペッサリーリングは膀胱瘤を抑えるためのM字部分によって、膀胱頸部の下垂で生じる排尿症状が抑えられた。また、腔内での固定性を高めるために直腸を圧迫しないで直腸をまたぐように固定部が開放しているため、柔軟性が高く、違和感なく便秘を妨げることができたという。膀胱瘤にも効果があり、排尿障害を改善し、QOLの向上が認められたという。

結果、骨盤臓器脱に新開発のM型ペッサリーリングは有用との結果が得られた。

(取材・編集部/渡邊亜希子)

